

# 一Link “新風”

Vol.60  
(通算 第153号)

6月13日よりサッカーワールドカップがブラジルで開催されます。  
ナショナリズムが働くのか、普段サッカーに興味のない人でもワールドカップは  
観戦されるという人が多いようです。  
時差のため、昼と夜が逆になります。睡眠不足で仕事に支障がないよう楽しみましょう。



『 蕪山反射炉 』

## 『今月の表紙』

蕪山反射炉は、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口及び関連地域」の構成資産として、  
昨年9月17日に世界遺産国内推薦資産に決定しました。

写真は、その直後に行われたイベントでの一枚です。

静岡県民としては、富士山に続き2ヶ所目の世界遺産となってもらいたいです。

一度皆さんも、伊豆の国市や蕪山反射炉応援団のホームページを見てもらい、一緒に応援  
していきましょう。

撮影日時：2013年9月21日 写真と文：製造部 石山さん



## 報徳思想



燕が飛び交い春の訪れを告げています。まだ朝晩は冷え込みますので、各位健康にはくれぐれも気をつけてください。さて、混沌とした世の中において企業も家庭もしばしば原点回帰をという言葉がささやかれます。

- 原点とは、いずれも私利私欲は捨て他利をもって活動するということでしょう。二宮尊徳の思想が今に伝えられる「**二宮翁夜話**」に次のような話があります。  
『身近なたとえを引けばこの湯船の湯のようなものだ。これを手で自分の方へかき寄せれば、湯はこちらへ来るようだけれども、みんな向こうの方へ流れ帰ってしまう。これを向こうの方へ押しみれば、湯は向こうの方へ行くようだけれども、やはりこっちの方に流れて帰る。少し押しせば少し帰り、強く押しせば強く帰る。これが天理なのだ。人間の手は自分の方へ向いて自分のために便利にもできているが、また向こうの方へも向いて向こうへ押せるようにもできている。獣の手はこれと違って、ただ自分の方へ向いて自分に便利のようにしかできていない。人と生まれたからには、他人のために押す道がある。それを我が方に手を向けて、他人のために押すことを忘れていたのでは人であって人ではない。鳥獣と同じことだ。なんと恥ずかしいことではないか。だから私は、常々“**奪うに益なく譲るに益あり、譲るに益あり奪うに益なし、これが天理だ**”と教えている。』

- 二宮尊徳(二宮金次郎)のプロフィール・経歴・略歴  
日本の農政家、思想家。幼名の「**二宮金次郎**」の名で知られている。江戸時代、相模国(のちの神奈川県)に農民の子として生まれる。5歳のとき大災害で一家の田畑を失う。14歳のとき父を、16歳のとき母を失う。伯父の二宮万兵衛の家に身を寄せ、努力の末20歳で生家の再興に成功。その後、小田原で武家奉公人としても働き、小田原藩家老服部家の財政再建を頼まれ、成功させる。旗本宇津家の下野国(のちの栃木県)桜町領を任せ、農業経営を行い成功させる。のちにその地は尊徳の名にちなみ二宮町と名付けられた。また東郷陣屋の天領の農業経営も成功させる。「**報徳思想**」を唱えて「**報徳仕法**」と呼ばれる農村復興政策を指導した。多くの小学校に薪を背負いながら読書する金次郎像が建てられた。

- 私が子供の頃は、どこの小学校にも二宮金次郎が薪を背負って本を読んでいる像がありましたが、今はどうでしょうか、全くに近いほど見受けられなくなっています。  
「歩いて本を読むのは危険」、「児童の教育方針にそぐわない」、「二宮先生の精神は、ケータイ見ながら歩く若者に受け継がれている」等の話があるようですが、バカバカしくて聞いてられない思いです。形だけで判断するのではなく、その像の中に流れる二宮金次郎(尊徳)の徳をもって徳に報いるという「**報徳**」思想を理解することが肝要であると思っています。  
**勤労**(よく働くこと)、**分度**(身分相応に暮らすこと)、**推譲**(世の中のために尽くす)がその三原則が基本となっていると言われています。



- 報徳思想を取り入れている企業が次のようなコメントを紹介しています。  
「**一圓融合(一円融合)**」は、二宮尊徳の報徳思想にある考え方です。この世で相対するものは、すべてが互いに働き合って一体となっている。だから別々に切り離して考えるのではなく、一つの円の中に入れて見る。その一つの円の中で、すべてのものが互いに働き合い、一体となった時に初めて結果が出るというのが「**一円融合**」です。企業社会においては、企業と人、企業と地域、企業と企業、すべてのものがお互いに働き合い、力を合わせて一つになることの重要性を示しているといえます。さらに、水や植物が永遠に循環するという自然の理(ことわり)からすれば、「**自然と人・企業との持続的な調和**」を意味するといえます。
- 私が卒業した掛川西高の近くに掛川城があって、そのすぐ東側に「**大日本報徳社**」があります。報徳思想普及のメッカでありその建物は由緒あるものです。一度訪れたらいいでしょう。この大日本報徳社については、別な機会に記載するつもりです。
- 日本人は、中国人のことをあれやこれやと言いますが、昨今の日本人の子供や大人の行為を見るにつけ、そんなこと言えたものではないなあと思うことがあります。**原点に立ち返った教育(共育)方針**というものを国を挙げて速やかに模索していかなければ日本も危ういと思う昨今です。

ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀